

神経研究の進歩 総目次

1956年～1964年(1巻1号～8巻4号)

- 1巻1号 '56年1月
神経系疾患の診断法(Ⅰ)
- 1巻2号 '56年4月
神経系疾患の診断法(Ⅱ)
- 1巻3号 '56年8月
代謝障害と神経疾患(Ⅰ)
- 1巻4号 '56年12月
代謝障害と神経疾患(Ⅱ)
- 2巻1号 '57年4月
脳の生理に関するシンポジウム
- 2巻2号 '57年10月
脳腫瘍
- 2巻3号 '58年3月
第1回国際神経科学学会展望(Ⅰ)
- 2巻4号 '58年5月
第1回国際神経科学学会展望(Ⅱ)
- 3巻1号 '58年10月
第1回国際神経科学学会展望(Ⅲ)
- 3巻2号 '59年1月
肝脳疾患(Ⅰ)
- 3巻3号 '59年4月
肝脳疾患(Ⅱ)・小脳
- 3巻4号 '59年9月
錐体外路系(Ⅰ)
- 4巻1号 '59年11月
錐体外路系(Ⅱ)
- 4巻2号 '60年1月
展望・脊髄血管障害例
- 4巻3号 '60年8月
神経化学懇話会
- 4巻4号 '60年8月
興味ある症例の臨床と病理
- 5巻1号 '60年10月
第1回神経病理懇話会
- 5巻2号 '61年5月
脳血管性障害(Ⅰ)
- 5巻3号 '61年9月
脳血管性障害(Ⅱ)
- 5巻4号 '61年12月
脳血管性障害(Ⅲ)・精神薬理
- 6巻1号 '62年3月
脳炎・膠質細胞(第2回神経病理懇話会)

- 6巻2号 '62年7月
小児神経病学
- 6巻3号 '62年9月
第4回神経化学懇話会特集号
- 6巻4号 '62年11月
神経解剖
- 7巻1号 '63年1月 ¥ 1,400
脳腫瘍(第3回神経病理懇話会)
- 7巻2号 '63年3月 ¥ 1,200
神経疫学・診断検査法
- 7巻3号 '63年6月 ¥ 1,400
脳研究のあゆみ
- 7巻4号 '63年8月 ¥ 1,200
第5回神経化学懇話会特集号
- 8巻1号 '64年1月 ¥ 1,200
末梢神経(第4回神経病理懇話会)
- 8巻2号 '64年4月 ¥ 1,200
奇形性神経疾患
- 8巻3号 '64年7月 ¥ 1,300
第6回神経化学懇話会特集号
- 8巻4号 '64年11月 ¥ 1,000
視床—構造・機能・臨床

7巻1号までおよび7巻3,4号は品切れになっています。

'65年3月 第9巻 第1号 1,000円

蛍光抗体法と Virus 性脳脊髄炎

(第5回神経病理懇話会)

- 日本脳炎の病理発生……………草野 信男
- 狂犬病……………大谷 杉士
- ポリオ(急性灰白髄炎)……………内田 信之
- 単純性ヘルペス脳炎と蛍光抗体法
- 新生マウスの実験感染を中
- 心として——……………山本 達也・他

【Special Lecture】

- Organic Mercurial Encephalopathy
- An Experimental Electron
- Microscope Study—……………W. Jann Brown et al.
- Discussion……………Noritsugu Mukai

【神経病理学的研究】

- Gargoylism 脳の電子顕微鏡的研究……………内村 祐之・他
- 硬膜外圧迫時の猫脳皮質の電子顕微

- 鏡的研究—特にステロイドの効果
について……………岡田 耕坪・他
- 一酸化炭素中毒完全間歇型の1剖検
例……………吉田 哲雄・他
- 非間歇型遷延一酸化炭素中毒症の1
剖検例……………飯塚 礼二・他
- 超軟X線による人体の血管構築
(動脈および静脈)について……………山村 武夫・他
- 著明な脳血管病変を合併した肝脳疾
患類癥痕型を疑わせる1剖検例……………小田 雅也・他
- 両側側頭葉の軟化を示した1例……………高畑 直彦・他
- ミオクロムスでんかん脳内小体の構
造と組織化学……………難 波 益 之
- 興味ある組織像を呈した Glioma
1例の報告およびその組織培養所
見……………景山 直樹・他
- Meningothelial Meningioma の電顕
像……………石田 陽一・他
- Infantile Neuroaxonal Dystrophy
(Seitelberger's Disease) の1例 ……諏訪 紀夫・他
- Infantile Subacute Necrotizing
Encephalopathy with Predilection
for the Brain Stem: Report of a
Case ……………Hideo Namiki
- Heidenhain 病の1例について……………辻山 義光・他
- 多数の壊死巣を伴った亜急性性汎脳脊
髄炎の1剖検例……………大塚 良作・他
- 静脈周囲脳炎の形を示した1剖検例……………猪瀬 正・他

【学会記録】

第5回神経病理懇話会記録

【原 著】

入院手術前に急死した脳腫瘍症例の
臨床病理学的研究……………横 山 蒼

'65年7月 第9巻 第2号 1,000円

【特集 I】 代謝性神経疾患

代謝異常による神経疾患研究の現況……………里 吉 営 二 郎

フェニルアラニン, チロジンの代謝
異常症……………塚田 裕三・他

ヒスチジン, トリプトファンおよび
プロリンの代謝異常と神経障害……………柿 本 泰 男

その他のアミノ酸代謝異常と中枢神
経障害……………多 田 啓 也

糖質代謝障害による筋疾患……………里吉営二郎・他

低血糖症と神経障害……………丸 山 博

ビリルビン代謝異常と神経障害……………馬 場 一 雄

Porphyria 症……………宇尾野公義・他

進行性筋ジストロフィー症骨格筋に
おける myoglobin の異常……………三好 和夫・他

【特集 II】 ミオパチーの疫学と臨床

日本におけるミオパチーの疫学的綜
括……………勝木 司馬之助

周期性四肢麻痺自験 43 症例の臨床
的分析……………沖中 重雄・他

周期性四肢麻痺の臨床—特にカリウ
ムとの関連……………板 原 克 哉

Thyrotoxic myopathy に関する二,
三の問題……………里 吉 営 二 郎

病的骨格筋とミオグロビン……………天児 民和・他

多発性筋炎ならびに近接疾患の診断
および病因について……………吉川 政己・他

多発性筋炎の筋生検所見……………祖父江逸郎・他

横紋筋アレルギーの実験的研究……………上村 紀元・他

多発性筋炎症候群……………黒 岩 義 五 郎

進行性筋ジストロフィー症に関する
研究……………三好 和夫・他

進行性筋ジストロフィー症に関する
二, 三の知見……………杉 田 秀 夫

新潟県におけるミオパチーの疫学お
よびその臨床……………室根 郁男・他

先天性ミオパチーの臨床……………高津 忠夫・他

Dystrophic arthrogryposis syndrome
の同胞例について……………室根 郁男・他

討 論

【古典のページ】

古典のページ発足にあたって……………萬 年 甫

大脳の電気的興奮性について—1870
年—……………Gustav T. Fritsch u. Eduard Hitzig

萬 年 甫 訳

'65年9月 第9巻 第3号 1,000円

第7回神経化学懇話会特集号

【巻頭言】……………中 脩 三

【シンポジウム I 脳の構成物質】

脳組織における ribonuclease in-
hibitor の存在とその精製の試み……………間瀬 桂吉・他

牛脳より抽出される生物学的活性ポ
リペプチド……………片岡 喜由・他

牛脳中の酸性ペプチド (I) ……………柿本 泰男・他

牛脳中の酸性ペプチド (II) ……………金沢 彰・他

チロシン水酸化酵素—脳および交感

神経分布臓器に特異なカタコール

アミン合成酵素……………永 津 俊 治

【シンポジウム II 神経系病態の生化学】

白鼠および猿による実験的フェニー

ルケトン尿症の研究……………平野 修助・他

実験的 porphyrin 症の神経化学的

研究……………中尾 喜久・他

マウス脳室内注入法より見た痙攣誘

発とイオン—特に Ca イオンとの

関係……………喜多富太郎・他

各種痙攣パターンの局所神経化学的

研究……………融 道男・他

ミオクロマス小体の超微細構造とミ

オクロマスでんかんに関する臨床

生化学的研究……………難 波 益 之

黒内障性白痴脳の脂質の分析と組織

化学……………猪瀬 正・他

Biochemistry of Multiple Sclerosis ……C.M. Plum

【特別講演】

Phenylketonuria; The Pathogenetic

Problems of a Molecular Disease

Affecting the Nervous System…W. Eugene Knox

Histamine and the Nervous System,

including Original Studies on Histamine

Formation and its Inhibition ……W.G. Clark

【一般演題】

神経疾患に関する免疫化学的研究……有岡 徹・他

Near-freezing method による脳部位

別アセチルリコン定量法……………高 橋 良

神経終末—新分離法と Na-K ATPase

活性の存在……………黒川 正則・他

脳白質の細胞分画知見……………加藤 尚彦・他

脳のイノシタイドとそれへの ³²P 組

入れについて……………林 浩平・他

脳切片におけるアミノ酸の能動輸送

—特に GABA 取り込みの局所的

特徴について—……………中村 陸郎・他

白鼠摘出頸部交感神経節のアミノ酸

代謝の研究……………永田 豊・他

C¹⁴-グルコースを用いたネコ脳のア

ミノ酸タンパク代謝の研究……………大森文太郎・他

肝臓酵素の活性調節と視床下部 (II)

—特にその神経性機構の解析につ

いて—……………嶋津 孝・他

マウスの部分脳における NAD の確

認と Hydrazine 2HCl の影響 ……斎藤 章二・他

脳腫瘍の診断における乳酸脱水素酵

素 Isozyme ……千ヶ崎裕夫・他

X線照射の脳蛋白質代謝ならびに脳

組織呼吸におよぼす影響……………原 隆夫・他

脳の核酸におよぼす tricyano-amino-

propene の影響 ……中 脩三・他

慢性覚醒剤中毒マウスの脳クレアチ

ン燃酸, アデニンヌクレオチドの

変動……………大須賀恒夫

【閉会の辞】

第7回神経化学懇話会を終つて……………佐 野 勇

【古典のページ】

老年期の特異な症例について—1911

年— ……Alois Alzheimer

吉岡 愛智郎訳

Alois Alzheimer について ……吉岡 愛智郎

【原 著】

脳外傷および脳腫脹の生化学的研究

—特にミトコンドリアの機能的変

化を中心に—……………荒木 千里・他

Myopathy の筋電図について ……室根 郁男・他

'65年12月 第9巻 第4号 1,000円

神経シンポジウム

【開会の辞】……………荒 木 正 哉

【シンポジウム I. 螢光抗体法と神経組織】

螢光抗体法からみたマウスの実験的

ヘルペス脳炎……………山本 達也・他

実験的狂犬病—新生児マウスにおけ

る発生病理—……………大 谷 杉 士

人工リボ蛋白抗原を組織化学に応用

する試み……………山川 民夫・他

【シンポジウム II. 代謝性神経疾患】

神経筋疾患の組織化学……………宇 尾 野 公 義

中枢神経系のカルミン陽性物質の動

態—肝臓疾患における糖原代謝の

問題によせて—……………小田 雅也・他

神経組織におけるグリコーゲン代謝

の組織化学……………武 内 忠 男

実験的高アンモニア血症におけるグ

リア核の態度……………諏訪 紀夫・他

【シンポジウム III. 髄鞘形成と二次変性】

組織培養法による髄鞘形成およ

び維持時の酵素組織化学的研究……米 沢 猛

髄鞘形成とグリア……………中沢 恒幸・他

中枢二次変性の電子顕微鏡的研究—

軸索および髄鞘の変化—……………谷 栄 一

神経線維の変化と酵素の分析……………熊 本 哲 三

【シンポジウム IV. 神経組織の細胞内顆粒】

脳内におけるカテコールアミンの含有

- 顆粒……………清水 信 夫
 脳 subcellar units の生化学的研究…植 村 慶 一
 興奮伝達の形態学的背景……………内 蘭 耕 二
 分離神経終末の研究……………黒 川 正 則
 末梢神経における伝達物質顆粒の分離の試み……………片岡 喜由・他
 神経分泌……………佐野 豊・他
 神経シンポジウムを終わつて……………白 木 博 次

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究：第1編

- 臨床的研究……………豊 島 範 夫
 家族例における Wilson 病の臨床と生化学……………福 田 一 彦

【古典のページ】

いわゆる「Horner 症候群」について

- ……………萬年 甫・他
 眼瞼下垂の一型について—1869年— ……J.F. Horner
 吉岡 愛智郎訳

あ と が き

桜も散って、医学の祭典ともいべき学会シーズンもいよいよ酬わの感がある。例年秋に開催されるものは別にして、脳神経関係の学会は4月に精神神経、5月に生理、7月に神経、神経病理、8月に解剖学会と間隔を置いて各地に分散開催される。研究テーマにより関連分野の広い方は、関係の学会に出席のため文字どおり東奔西走、たいへんなことと思う。

明年は医学会総会（名古屋）の年にあたり、各分野一堂に会するが、神経学領域でも数多い関連学会、研究会が、せめて4年に一度くらい総合的な神経学会連合会のようなものをもつといったことは実現できないだろうか。学問の交流、発展のために期待したいものである。

本号は昨年度の「脳のシンポジウム」および前号原著の続編、連載の「古典のページ」を収録した。次号は「神経病理、神経化学」の学会特集、3号は特集「記憶」と本年度「脳のシンポジウム」掲載の予定である。

このところ毎号発刊遅延をお詫びするのが通例となり、誠に心苦しい次第である。できるだけ早く軌道にのせるよう努力しているのでいま暫くご寛恕いただきたい。（編集室記）

投 稿 規 定

- 1) 原稿は横書き、平仮名を用い新かなづかい。かならず原稿用紙を用いること。
- 2) 欧文名は原則として原語で書き、度量衡の単位は mm, cm, cc, dl, mg, g, kg 等と記すこと。
- 3) 原著にはタイプで10行以内の段文 abstract をつけること。また題名、氏名、所属はかならず欧文を要する。
- 4) 発表は欧文でもよいが、この場合はあらかじめ編集室に連絡のこと。なお、和文抄録（400 字詰 1 枚程度）添付のこと。
- 5) 原稿枚数 40 枚・写真版、図表等 10 コ以内とする。超過の場合は実費を請求する。
- 6) 掲載の分には掲載誌および別冊 50 部を贈呈する。
- 7) 採否は編集委員会で決定する。
- 8) 原稿は東京都文京区本郷 5 丁目 29 番 11 号医学書院「神経研究の進歩」編集室宛送られたい。